

今月号では、山陽鋼機建設株式会社の代表取締役 平田雅典氏にお話を伺いました。



## 山陽鋼機建設株式会社

|     |                          |
|-----|--------------------------|
| 所在地 | 山口市小郡上郷3552              |
| 連絡先 | TEL 083-972-2362         |
| H P | https://sanyokoki.co.jp/ |
| 代表  | 平田雅典                     |



代表取締役の平田雅典氏

### 沿革

- 昭和46年8月 株式会社山陽鋼機を設立
- 昭和62年9月 山陽鋼機建設株式会社に社名変更
- 平成27年7月 平田雅典氏が2代目社長に就任
- 令和 2年8月 設立50周年を迎える



ホームページ

### ●小郡に根差して55年、鉄工所から総合建設業へ

当社は株式会社山陽鋼機として昭和46年に創業しました。今年で設立55年を迎えます。事業規模の変化に伴って移転を繰り返しながらも、創業当時から小郡で事業を営んでいます。当初は建築物の骨組みとなる鉄骨を製造する鉄工所を運営していました。その後、建設業にも手を広げ、昭和62年に社名を山陽鋼機建設株式会社へと変えました。現在は総合建設業として、鉄工部、建設部、不動産部を設けています。



本社

私自身は高校卒業後に東京の建設系専門学校に進学した後、東京の建設会社で2年ほど働きました。高校までは後を継ぐことについてそこまで意識したことはなかったのですが、昔から父の働く姿を見ていたこともあり、進学先やその後の就職を考えたとき、後継ぎになることを自覚するようになりました。22歳で山口に戻って山陽鋼機建設に入社し、働きながら1級建築士や宅地建物取引士（宅建士）といった資格を取得しました。

当時、1級建築士を受験するには4年以上の実務経験が必要だったため、自社で経験を積みながら、建築・土木・不動産分野の資格取得に特化した学校に通って勉強し、27歳で合格しました。人生でいちばんよく勉強したと思います。

宅建士は母が持っていたのですが、現場監督として様々な工事に携わり、人脈が増えていく中でいろんな相談を受けるようになり、「建物を建てたいが、土地から探してほしい」という話も多々ありました。「自分も宅建士を取らなければ話についていけない」と思い、35歳のときに取得しました。

### ●建設を軸に広がる多角化経営

鉄工部、建設部、不動産部の3部門があります。鉄工部では敷地内にある2つの工場、店舗やテナント、工場倉庫のほか住宅向けの建築資材となる鉄骨を製造しています。第一工場では工場や事務所などの建物一般の鉄骨を作っており、第二工場では主に約30年にわたって業務提携をしている積水ハウスのアパートなど三階建ての大きな建物の骨組みになる部材製造を受けています。また、建築向けの技術や知識を応用して看板製作をすることもあります。



第二工場

建設部では、不動産部もあるので、お客様のニーズに合わせた土地活用や土地探しの提案から、設計・施工・メンテナンスまでをトータルで対応することができます。店舗や事務所、工場、倉庫などの依頼をいただくことが多いです。

不動産部では、関連会社の株式会社山陽とともに事務所などの賃貸物件を管理・運営しています。最近では、長年携わっていた新山口駅北地区の法定第一種市街地再開発事業が昨年ようやく完了しました。元々、再開発事業の話は約30年前から上がっており、一旦は白紙になりましたが13年前から再び再開発事業の機運が高まり、母が再開発エリアの地権者だったのでその時から当社もこの事業に携わるようになりました。



ザ・リース セントラルビル 新山口

再開発事業では当社を含め地元の企業と地権者のみでホテル棟、住宅棟、賃貸住宅棟、オフィス棟の開発に取り組みました。そういった中で、当社はこれまでにはなかった規模感で挑戦しようと、オフィスビル「ザ・リース セントラルビル 新山口」を建てました。1階が飲食店向けのテナント、2~7階がオフィス向けテナントとなっています。

新型コロナの影響や、物価高、建築費高騰で総工費が想定以上に膨らむことが試算されるなど三歩進んで二歩下がるという状況があり、継続が危ぶまれることもありました。しかし建築費がどんどん上がっていく傾向にあったため「今が最後のチャンス」と、決断して進められ、完成に漕ぎつけました。

そのほか、関連会社として平成22年に設立した山陽メディカルケア株式会社もあります。同社を設立したのは、当時景気があまりよくない状態で、建築業がこの先どうなるのか見通しがつきづらかったためです。建築業一本で事業を進めていくよりも多角化経営に切り替えた方がいいのではないかと、介護施設を開きました。その中でも介護事業を展開することにしたのは、山口県の高齢化率が全国でも上位にあるため需要があり、今後必要とされる事業だろうと考えたためです。現在は住宅型有料老人ホーム「ゆめの里」を平川、阿知須、萩の3か所で運営しており、ご入居者様とご家族様に安心・信頼していただける場所の提供に努めています。



ゆめの里くろかわ

## ●技能実習生とともに支えるものづくりの現場

当社では約10年前から技能実習制度を活用しています。技能実習生を雇い始めたのは、鉄工所で働く溶接工の人手不足に悩んでいたためです。建築部材の溶接は同じ作業の繰り返しが多く根気が必要な仕事で、なかなか人が定着しづらい状況がありました。

現在ではフィリピン人技能実習生を常時10名ほど雇用しています。3人が帰国したら、新たに3人を雇用するようなローテーションで、入社したての日本語が不慣れた新人に対しては先輩社員が母国語で通訳しながら教えられる仕組みができています。

最近は大人しい性格の人が増えているような気がしますが、フィリピン人には陽気な人が多い印象で、雇い始めた頃は文化の違いによるトラブルもありました。着任して最初の土曜日に、宿舎で開いていたパーティーで22時以降も騒いでいたようで、次の日にみんなで隣の方に謝りに行ったということがありました。

このようなトラブルはありながらも、これまで当社で働いてくれた人とはSNSで繋がるなど帰国した後も時々連絡を取り、良好な関係が続いています。3年ほど前には技能実習生の結婚式のためフィリピンを訪れたこともありました。今年の正月は元実習生のフィリピンの自宅に伺って一緒に新年を祝いました。コロナ禍以降は現地でも直接面接を行いますし、プライベートで遊びに行くこともあって、フィリピンには平均して年1回は訪れています。



技能実習生による溶接作業



結婚式に証人として参加



元技能実習生宅で過ごした正月

## ●地域のために未来を「想像・創造」する

「地域のために、未来を『想像・創造』する企業に」をスローガンに掲げており、昨年完了した新山口駅前の再開発事業は、その理念を体現できた取り組みの一つであったと感じています。

当社は小郡の地に根差して50年以上にわたり事業を続けてきました。地域がより賑やかになり、発展していくために何ができるだろうかと常に考えています。

新山口駅周辺はKDDI 維新ホールができたことによって人を集める機能が整ってきた一方で、周辺の飲食店の数が限られるなど、まだ発展の余地があると感じています。訪れた人をいかに地域に留めるかを考えることで、さらに魅力あるまちづくりにつながるのではないのでしょうか。

再開発によって街や駅前ににぎわいが生まれ、その流れの中で当社も共に成長していきたいと考えています。